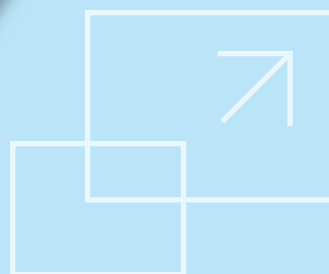
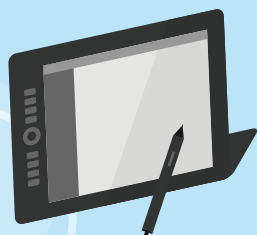


美しさは缶バッジの命！

顧客満足度の高い商品をつくるための

印刷・デザインのコツ



IBM
BADGE-MAN.NET

はじめに

「推し活」に見られるようなキャラクターブームに商機を見出し、缶バッジ製作を検討している事業者も多いのではないのでしょうか。

一つ一つの価格が安く、コレクションの対象にも最適な缶バッジは、デザインが多様で、同じキャラクターであってもさまざまなバリエーションで制作できます。購入者側から見ると定番グッズである缶バッジは、サイズが小さくて、コレクションしやすく、しかもおしゃれなファッションアイテムとしても日常的に使用できるものです。そのため缶バッジの人気は衰えることはありません。

缶バッジの構造はシンプルで、素材とマシンがあれば専門的な技術がなくても製作が可能です。しかしシンプルな造りであるだけに、非常に重要となるのが商品の美しさや品質の高さです。

そこで本Ebookでは、購入者に満足してもらえ、期待に応えるために、缶バッジ製作において重要となる印刷とデザインのコツやポイント、注意点などについて解説します。

もくじ

はじめに	01
缶バッジ市場の現状と需要	02
缶バッジ印刷の基本	03-04
適切な印刷方法、印刷機を選ぶには	05-06
缶バッジデザインの基本	07
缶バッジデザインのコツ	08
缶バッジデザイン例	09
デザイン・印刷以外にもこだわるべきポイント	10
ハイクオリティな缶バッジ製作は「バッジマンネット」をご利用ください	11
まとめ	12

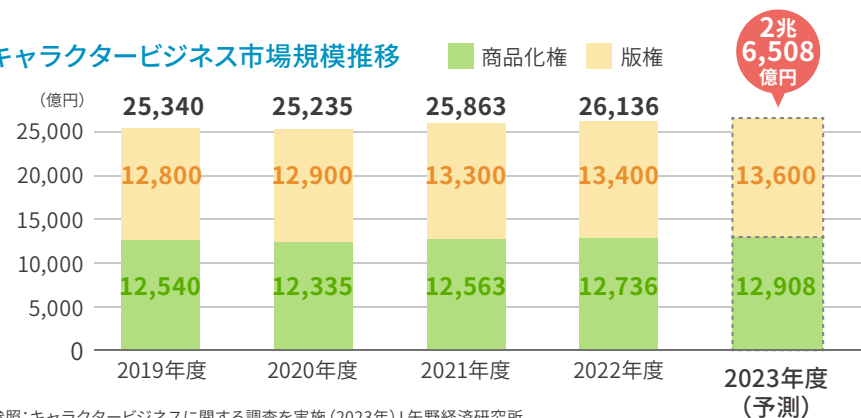
缶バッジ市場の現状と需要

はじめに缶バッジ市場の現状と今後について解説します。

市場動向

矢野経済研究所による2023年キャラクタービジネスに関する調査では、2023年度のキャラクタービジネス市場を前年度比101.4%の2兆6,508億円と予測しています。

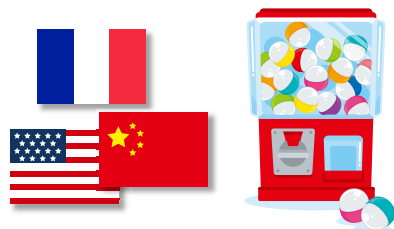
キャラクタービジネス市場規模推移



参照:キャラクタービジネスに関する調査を実施(2023年)|矢野経済研究所

内容としてはヒットが確実視されるアニメ・キャラクターがけん引し、市場規模はさらなる増加が期待されます。ここ10年の推移を見ても、キャラクタービジネス市場は順調に拡大を続けていることがわかります。

またキャラクターと缶バッジは非常に親和性が高く、カプセルトイの再ブームやインバウンドの回復も追い風となって、缶バッジ市場も同時に膨らみ続けています。



市場の背景

背景となるのが近年の推し活ブームです。自分の「推し」グッズに囲まれていたいというニーズが増加しており、アクリル系のグッズと並んで缶バッジは重要なアイテムの一つと考えられます。

個人的な楽しみにお金を使う傾向は、若年層からさらに年齢の高い世代に広がり、定着しつつあります。自由にお金を使える世代にも、推し活ブームが浸透しているため缶バッジを含めたキャラクターグッズの需要はますます伸びると推測されます。

こうした状況下にあって、缶バッジビジネスには大きな可能性が感じられます。

一方で、昨今市場にはさまざまなグッズが溢れ、定番アイテムである缶バッジをつくる競合も多いことから、**ただ作るだけではなく品質面や美しさを追究し、より良い缶バッジを作ることが大切です。**

他社との差別化のポイントは品質と、オリジナルのデザインがあげられます。キャラクターの特徴を活かしたデザインでありつつ、愛好家たちから高い満足度を引き出せるだけの品質であることがビジネス成功への大きなカギとも言えるでしょう。



缶バッジ印刷の基本

缶バッジ印刷の基本的な知識を紹介します。

缶バッジの基本構造と印刷の重要性

缶バッジの構造は、本体（シェル）、用紙、フィルムの順に重ね圧着する方法で形成されています。印刷の質は缶バッジの美しさを決定づけるものであり、缶バッジの品質に直結します。缶バッジのようなシンプルなアイテムにおいては、印刷品質により仕上がりに大きな差が生じるため、印刷工程がとても重要です。

缶バッジを美しく仕上げるための大きなポイントは、以下の3つがあげられます。

- 缶バッジの構造を理解する
- デザインに合わせた用紙選び
- 適切な印刷方法の選択

1 印刷 白い紙に印刷



2 形成



印刷方法のさまざまな工夫

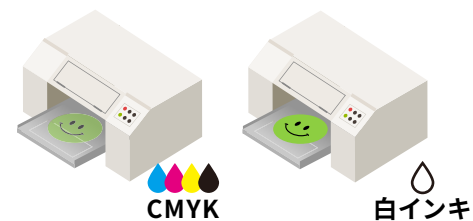
缶バッジは「本体（シェル）にデザインをかしめる」という基本構造については変えられないため、その制限のなかで各社さまざまな工夫をしています。

例えば

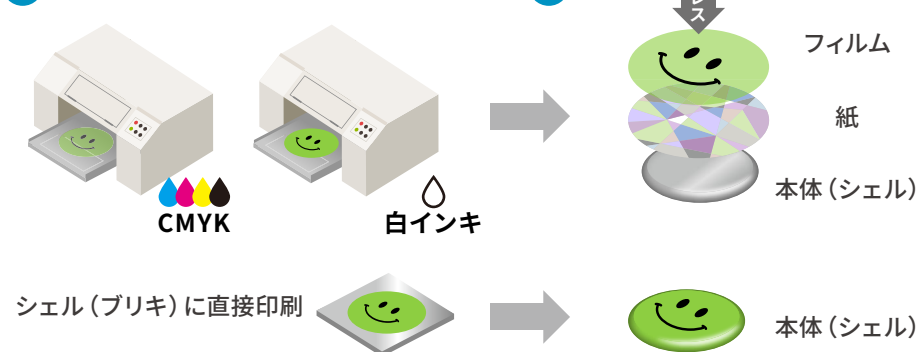
- ・フィルムの裏側にデザインを印刷
- ・シェル（ブリキ）にデザインを印刷

といった特殊な作り方を実践している企業もあります。カードなどでよく採用されている「レンチキュラー印刷」（見る角度によって絵柄が変わる印刷法）を、缶バッジ製作に取り入れる珍しいケースも見られます。ほかにも、3D表現により立体的に見せるなど、よりデザインのモチーフの魅力を活かした缶バッジとなっている例もあります。

1 印刷 透明フィルムに裏側から印刷



2 形成

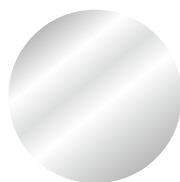


缶バッジ印刷の基本

また、フィルムを変更することで同じデザインでも異なるテイストの缶バッジを作ること可能です。

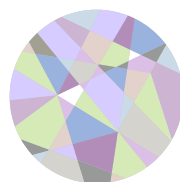
個性的な仕上がりが実現できるフィルムには、以下のようなものがあります。

■ 高光沢フィルム



高光沢フィルムは、表面が非常に滑らかで光を反射する能力が高いフィルムのことです。高光沢の仕上げは、色彩や画像の鮮やかさを強調し、デザインをより魅力的に見せることができます。

■ ホログラムフィルム

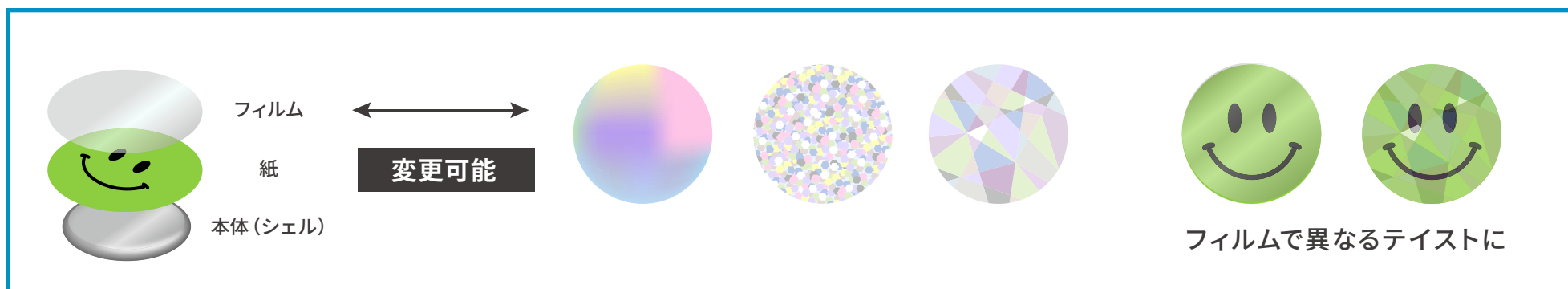


ホログラムフィルムは、光学的な特性を利用して、特殊なパターンやイメージを生成するフィルムです。ホログラムは、光の干渉と回折に基づいて生成され、3次元的な錯覚を生み出すことができます。

■ リフレクタータイプ



リフレクタータイプは、光を反射して目立つようにするための特殊なフィルムです。反射性が高いため、夜間や暗い環境での視認性が向上し、缶バッジの存在感を高めます。



ただしこうした特殊な缶バッジをつくる場合は、それに適した印刷機や印刷方法を検討する必要があります。

適切な印刷方法、印刷機を選ぶには

缶バッジビジネスを成功に導くための、印刷方法や印刷機の選び方を紹介します。

印刷方法の 選び方

レーザー印刷、インクジェット印刷、シルク印刷、昇華転写プリントなど、色々な種類の印刷方法がありますが、缶バッジにはどれが向いているでしょうか。それぞれの印刷方法の特徴や、缶バッジに適した印刷方法について説明します。



主な印刷方法の種類

■レーザー印刷 ★

レーザー光で紙に熱を加え、その熱でトナーを紙に溶着させる印刷方法です。

高解像度で印刷でき、印刷速度が速いというメリットがあります。

一般的には、白黒印刷に適しているとされます。

■インクジェット印刷 ★

インクを紙に吹き付けて印刷する方法です。

写真やグラデーションなどの表現が得意で、

デザインを美しく再現できるためカラー印刷に適しています。

■シルクスクリーン印刷

版にインクを置いて、その版を紙や布に押し付けて印刷する方法です。

耐久性に優れており、大量生産に適しています。

■昇華転写プリント

インクを熱で気化させて、その気体を紙や布に染み込ませる印刷方法です。

発色が鮮やかで色落ちしにくいのが特徴です。

基本的に缶バッジは紙にデザインを印刷するため、「紙に綺麗に印刷できる方法」を選択します。注意点としては、ブリキを本体とする缶バッジは水分によってサビといった劣化につながるため、インクの水分が残りやすいような印刷方法は避けるのが妥当です。

また、前ページで紹介したような特殊な缶バッジを作りたい場合には、それぞれに適した印刷方法を選択する必要があります。

特にフィルムに直接印刷する場合には、対応できる印刷機を準備しなければなりません。

**一般的には、缶バッジ製作を考えるとときには左記のうち
レーザー印刷とインクジェット印刷のいずれかが適しています。**

実際には大判（業務用）の水性インクジェットプリンターを使用しているケースが多く見られます。ちなみに家庭用プリンターでは出力が弱くビジネス利用には不向きです。

レーザー印刷の方が低コストで印刷速度は優れていますが、印刷の美しさではインクジェット印刷が勝ります。レーザー印刷は若干インクの粒子と粒子の間に隙間が残りますが、インクジェットはそれが無く均一でかすれも少ない仕上がりととなります。

適切な印刷方法、印刷機を選ぶには



印刷機の 選び方

印刷機を選ぶときには以下のポイントを意識しておきましょう。

生産数に見合った性能のものを選ぶ

ニーズに適した生産体制が可能となる効率性、印刷速度が実現できる印刷機であるかどうかを確認しましょう。依頼や事業上の必要性に対して、確実に生産できる性能が必要です。

印刷対象とのマッチング

紙以外に印刷する缶バッジを作りたい場合には、それに対応できる印刷機を選ぶ必要があります。例えばフィルムやブリキに印刷したい、特殊な紙に印刷したいなどといったケースが考えられます。

メーカーで選ぶ

ビジネス向けのプリンタの例としては、以下のようなメーカーがあります。

EPSON

昇華転写機能搭載した安定性のあるプリンタを提供しています。あらかじめ専用の紙にデザインをプリントし、熱で気化させて転写する方式です。小ロットのオーダーにも迅速に対応でき、作業スペースや仕事量に応じたラインアップが提供されています。

Roland

"Print&Cut"技術の先駆者と言われるメーカーです。1台のプリンタで、印刷と同時にイラストや文字を切り抜ける機能を搭載しています。UVランプや新開発プリントヘッドを使用しているため、細部の表現力が高いのが特徴です。

Mimaki

高い画質と生産性を誇るプリンタです。高付加価値機能を備えたフラッグシップモデルを始め、多彩な機種を提供しています。短納期の受注に対応できる高速性があります。

HP

圧倒的なプリントスピードと高品質のカラープリントが特徴です。"iFデザインアワード2016"受賞の実力があります。ユーザーフレンドリーで直感的に使い、印刷効率を最大化します。

最近のおすすめとしては、以下のような特徴を持つプリンタも登場しています。

- ✓ 色彩鮮やかで自然な発色の水性レジンプリンタ
- ✓ 使いやすさを実現する最適なユーザビリティを提供
- ✓ 速乾性に加え、低ランニングコスト
- ✓ 高発色性、速乾性、安全性に優れた水性レジンインク対応
- ✓ さまざまなメディアに印刷可能

缶バッジデザインの基本

缶バッジを製作するだけでなく、デザインも併せて自社で行う場合にはデザインについての知識も必要となります。

缶バッジデザインの基本

デザインデータ作成の際は、完成サイズ+巻きしろ部分までデザインする必要があります。**缶バッジは立体的であるため、巻きしろ部分が缶バッジの側面になります。**基本的なデザインでは巻きしろの内側に収めますが、なかには側面にわざとデザインを入れる、文字を入れるといったデザインを作成することもあります。

また、解像度とカラーモードの設定も重要です。解像度は、画像やデザインの画素密度を表す指標です。缶バッジのデザインにおいては、高品質な印刷を実現するために、300dpi以上の解像度が推奨されます。低解像度の画像を使用すると、プリント時にぼやけたり粗くなったりする可能性があります。ただし解像度が高すぎると出力できない場合もあります。カラーモードは、デザインや画像がどのように色を表現するかを定義する方法です。

一般的なカラーモードには、以下の3つがあります。



缶バッジのデザインでは通常は、印刷時には最適な色再現が期待されるCMYKカラーモードが使用されます。デザインの過程で、RGBモードで作業した場合でも、最終的には印刷に適したCMYKに変換する必要があります。

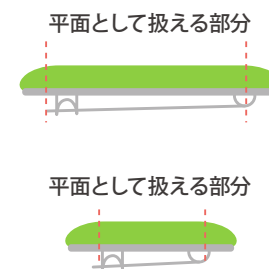


缶バッジデザインにおいて重要なのが、缶バッジは弧を描いているということへの意識です。データ作成時はデザインを平面で見っていますが、実物は淵に向かって曲面を描いており、缶バッジとして完成するとイメージ・印象が変わってしまう可能性があります。曲面にかかるデザイン部分は角度や反射で見えにくくなってしまうため、注意が必要です。

このため**淵ぎりぎりまでデザイン(絵柄や文字)が入っていると、デザインがゆがんで見えたり端が見えにくかったりします。**PC画面だけ見てデザインを決めると、実際の仕上がりに違和感が生じることもあります。そのため、缶バッジは試作をしてみるプロセスが大切です。

特に見切れが発生させたくない文字デザイン、ロゴデザインの場合、少し中心寄りに配置することを意識すると綺麗にまとまるケースもあります。

また、缶バッジは大きいサイズほどフラットに近い形状になるので比較的の外周付近までデザインを入れやすくなります。一方、小さいサイズになると相対的に曲面のRが強くなります。そのため平面として扱える部分が少なくなり、外周付近が歪んで見えるという特徴があります。このようにサイズによって有効に使える範囲が若干異なることを意識すると、イメージ通りの缶バッジを作りやすくなります。



缶バッジデザインのコツ

より魅力的な缶バッジデザインを作成するコツやポイントを紹介します。

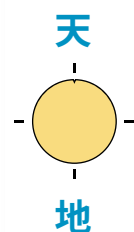
缶バッジデザインのコツ

デザインを詰め込みすぎない



缶バッジはサイズに制限があるため、デザインで伝えたい情報が多いとごちゃごちゃした印象になります。缶バッジの限られたスペースで一番何を見せたいのか、伝えたいのかを考え、デザインを詰め込みすぎないようにしましょう。デザインにおいては、余白が重要になることを意識します。

天地点をしっかり確認する



缶バッジはピンに対して、デザインがしっかりと水平になっていることが重要です。そのために、デザイン作成時点で上下左右のしるしをつけておき、そのしるしを頼りに缶バッジを製作すると高い精度で水平を保つことができます。その際、缶バッジマシンの金型にも上下左右のしるしをつけておき、デザインの上下左右のしるしを照らし合わせて作ると正確な仕上がりとなります。

缶バッジのフォルムを活かしたデザインにする



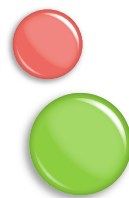
缶バッジ特有の側面の丸みを活かしたデザイン、立体感を与える陰影のあるデザインなど、フォルムを十分に活かしたデザインを目指します。缶バッジでなければ演出できない世界観をデザインで表現します。

メインと背景の色のコントラストに注意する



缶バッジはサイズが小さいため、メインのデザインと背景の色のコントラストが重要です。コントラストが強すぎるとメインのデザインが目立ちすぎてしまい、逆にコントラストが弱すぎるとデザインがぼやけてしまうため、十分な調整が必要です。

ターゲットや用途にあわせたサイズ、形状を選ぶ



缶バッジでは直径(横)2cmから8cm程度のものが主要なサイズですが、なかには直径(横)15cmほどのインパクト抜群な特大サイズもあります。形も丸型、楕円型、正方形、長方形など種類は多様です。ターゲットやデザインに合わせて、優しいイメージにする、スタイリッシュに仕上げるなどより効果の出る形を選ぶようにします。

色違いデザインを用意する



同じデザインでも、カラーによって印象が大きく異なります。色違いデザインを用意することで、ターゲットや用途に合わせて、選択肢が広がられます。また、ユーザー側でもコレクションやアレンジの幅が広がり、楽しむことができます。

缶バッジデザイン例



デザイン・印刷以外にもこだわるべきポイント

美しく高品質な缶バッジを作るために、印刷・デザインのほかにこだわるべきポイントを紹介します。

オートラミネーターの活用

オートラミネーターは、デザインを印刷した紙をラミネートしてからプレスすることで、クオリティと作業効率アップを実現します。デザインを印刷した用紙を事前にラミネートすることで、美しさと作業効率の向上が同時に期待できます。ゴミの混入や静電気による巻き込み不良を最小限に抑えられるうえに、作業工数が省略され、スピードアップしながら品質を担保することが可能です。

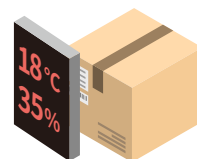


品質管理

缶バッジに求められる品質とは、印刷の発色やレイアウトなどのデザイン、傷や擦れ、へこみの有無、各パーツが仕様通りに仕上げられていることです。くわえてパーツの耐久性や耐候性、安全性の高さも重要となります。

缶バッジのパーツ、完成品の保管状態が悪いと、キズや汚れ、サビで缶バッジの価値が下がってしまう可能性があります。そのため、徹底した品質管理体制が重要となります。缶バッジは基本的に錆びに弱い材質で作られており、またデリケートであるため保管、製造、出荷のすべてにおいての徹底した品質管理が求められますが、防錆対策として防錆紙の活用がおすすめです。

バッジマンネットが使用している「CORTEC VpCI-146 防錆紙」は、製品を構成する92%以上がUSDA(米国農務省)が承認する天然成分でできており、亜硝酸塩、クロメート、窒素酸化物、リン酸化合物系防錆成分などの有害物質を含まない、人にも環境にも優しい防錆剤です。環境に配慮しながら、約2年間長期間持続する高い防錆能力があります。



缶バッジマシン

マシンの良し悪しは缶バッジの仕上がりに直結するため、機能性と耐久性の高い缶バッジマシンを選ぶことが重要です。

使いやすく安全性に優れたマシンを使うことで、商品品質のばらつきが抑えられ、量産体制にも対応可能です。使いやすさに優れたマシンによって熟練した技がなくても、一定の訓練によって商品製作が可能となり、高い技術を持つ人材を新たに雇用せずに生産体制を整備できます。

性能が高く耐久性に優れるマシンは、安定的な生産に不可欠であり、選定には十分な検討が必要です。



とくに品質基準が厳しいライセンスグッズとしての缶バッジづくりを視野に入れる場合は、上記についても強くこだわるべきでしょう。

ライセンスグッズの製作については、他のEbookでも詳しく解説しています。ぜひご覧ください。

Ebookはこちら ▶

ハイクオリティな缶バッジ製作は「バッジマンネット」をご利用ください



バッジマンネットは缶バッジビジネスを成功させるためのあらゆるサポートを提供しています。

[お役立ちコラムはこちら ▶](#)

■ バッジマンネットとは

バッジマンネットは缶バッジビジネスに必要なマシン、多種多様な素材を提供する企業です。

国産・最高品質商品と本場USAの高品質商品を扱う企業として、創業以来缶バッジビジネスを支えています。さらに独自のこだわりをもった商品もあわせて提供しており、缶バッジ製作に関するニーズに適時対応しています。

さらに、商品を販売するだけでなく缶バッジビジネスに関わる全域を手厚くサポートしていることで、各方面から大きな支持を得られています。バッジマンネットでは、自ら缶バッジ製造を行っておらず、顧客に対して競合とならないため、ノウハウを惜しみなく提供することができます。本Ebookと同様、多種多様なテーマでコンテンツを公開しているため、缶バッジ製作に関する情報を、ユーザー自身で学び、解決策を見出すことも可能です。

また、バッジマンネットでは購入窓口がECサイトに限定されているため、価格が明確で透明性、公平性の高い取引を実現しています。現在、バッジマンネットのユーザー数は25,300件超、うち13.2%が官公庁、23.6%が個人、63.2%が法人で、鉄道交通会社・旅行代理店・酒造会社・美術館博物館・マーケティング企業・印刷企業・動植物園・芸能事務所・レジャー施設企業・電力企業・IT企業など多種多様な大手企業・法人が活用していることから、厚い信頼を寄せられていることがわかりいただけます。

■ バッジマンネットの特徴や強み

バッジマンネットでは、こだわりの商品ラインナップと管理体制、素早い発送、手厚いアフターサポートなどで缶バッジづくりを全面的にサポートします。



国産・最高品質商品と本場USAの高品質商品および自社開発のこだわりのラインナップを提供し、耐久性が高く不良生産率が低い缶バッジマシンやユーザーニーズにあわせた缶バッジパーツをお届けしています。マシンに関しては、プロ仕様缶バッジマシンで1年、自動缶バッジマシンで90日の保証期間があり、マシンごとに付与されたシリアルナンバーで修理記録が明確に管理されているため、急な不具合の際も安心です。

缶バッジ製作に関するノウハウも豊富で、相談や問い合わせには常に丁寧に対応するだけでなく、画像や動画での解説コンテンツも充実しています。

さらに、缶バッジについて知り尽くしたバッジマンネットでは、湿度に影響を受けやすいブリキ素材のパーツを保護するため倉庫内環境を徹底管理しています。温度・湿度を常時モニタリング、巨大サーキュレーターで空気循環を行い、高品質でサステナブルな「CORTEC VpCI-146 防錆紙」を活用してパーツの良好な状態の維持に努めています。

さらに結露やメッキの剥離などを監視しながら信頼性の高いパーツを提供し続けることに腐心し、常に誠意ある姿勢で缶バッジビジネスをサポートしています。

まとめ

缶バッジは決して高級なアイテムではありませんが、購入者にはキャラクターやデザインに寄せる強いこだわりがあります。缶バッジの仕上がりが美しいことは、商品としての大前提であり、競争が激化するビジネスにおいての大きな強みとなります。

単に人気キャラクターを採用だけでは、商品価値と差別化における優位性を高められません。購入者の高い満足度を獲得できる、商品作りを意識する必要があります。

缶バッジの美しさを実現するためには、今回ご紹介したように印刷方法の適切な選択や、デザイン時のポイントを押さえることが大切です。また缶バッジの基本的なベースを担う、缶バッジパーツやマシンの品質にこだわることも重要となります。

理想的な仕上がりを実現するために、缶バッジ製作に関するあらゆる知見を持ち、こだわりの商品を提供するバッジマンネットをぜひご活用ください。



<https://www.badge-man.net>

お問い合わせ ▶

資料請求 ▶